

令和元年度 第2回 芦屋市立青少年愛護センター運営連絡会 議事録

日 時	令和2年1月22日（水） 午後2時00分～4時00分
場 所	芦屋市立体育館・青少年センター3階 第1研修室
出席者	委員長 渡部 昭男 委員 進藤 昌子 〃 倉内 弘子 〃 春井 昌希 〃 今村 一美 〃 北野 章 〃 入江 祝栄 〃 中村 紀子 欠席者 副委員長 三井 幸裕 委員 井阪 純一 〃 北尾 文孝 〃 橋本 恭子
芦屋市教育委員会	教育長 福岡 憲助 社会教育部長 田中 徹
事務局	芦屋市立青少年愛護センター 所 長 大久保 文昭 事務局員 高橋 収 太期 郁子
会議の公開	■公開
傍聴者数	0人

1 会議次第

(1) 開 会

(2) 議 事

(一) 令和元年度 芦屋市立青少年センター事業報告（4月～12月）

(二) 意見交換

(3) 閉 会

2 提出資料

(1) 令和元年度 第2回芦屋市立青少年愛護センター運営連絡会次第及び事業報告（4月～12月）資料

3 審議経過（概要）

(事務局：大久保) 本日は、令和元年度第2回芦屋市立青少年愛護センター運営連絡会にご出席いただきありがとうございます。三井副委員長，井阪委員，北尾委員，橋本委員がご欠席でございますが，運営連絡会の委員の半数をもちまして会が成立していることをご報告致します。始めに，福岡教育長より皆様へご挨拶を申し上げます。

—福岡教育長挨拶—

(事務局：大久保) 続きまして，渡部委員長からご挨拶をお願い致します。

(渡部委員長) みなさん，今年もよろしくお願ひ致します。

この冬は，比較的暖かかったですね。天気予報を聞いておりましたら，桜は寒くて目が覚めるそうです。寒くないと目が覚めなくて，春の開花が乱れるそうなのです。例年並みに寒くなって欲しいと思っているこの頃です。

それでは，どうぞよろしくお願ひ致します。

(事務局：大久保) ありがとうございます。ここで，教育長，公務のため退席させていただきます。

続きまして，事務局からいつも通りご説明させていただきます。芦屋市情報公開条例第19条の規定に基づきまして，この運営連絡会は原則，公開となっております。なお，非公開情報が含まれる場合や，公開することにより公正，または，円滑な審議ができない場合は，非公開にすることができます。その際は，ご発言の前に，お申し出ください。

また，会議内容につきましては，録音させていただきます。委員の皆様には，発言内容を後日，確認していただき，市のホームページに掲載させていただきます。氏名も公表されることをご了解いただきたいと思います。本日は，傍聴者はおられません。

続きまして，事務局職員の紹介と配布資料の確認をさせていただきます。

—事務局職員の紹介と資料の確認—

(事務局：大久保) それでは，令和元年度第2回青少年愛護センター運営連絡会を開催させていただきます。進行を渡部委員長をお願い致します。

(渡部委員長) 議題通り進めます。後で，委員の皆様にご意見をいただきますので，よろしくお願ひ致します。

それでは，事務局から事業報告をお願い致します。

(事務局：大久保)

【 事業報告の説明 】

(渡部委員長) どうもありがとうございました。事業報告に関わっても、関わらなくても、日頃、感じておられることなどをお願い致します。入江さんからよろしくお願い致します。

(入江委員) 育成愛護委員会会長の入江です。よろしくお願い致します。

先ほど、大久保所長から報告があったように、一年間、私たち愛護委員は、色々と活動させていただきました。

昨日、愛護委員の役員会があり、その後、兵庫県警の講師の方に来ていただき「護身術」を教えていただきました。40名弱の愛護委員さんが参加しました。皆様、とても楽しみにしていました。県警で普段、警官に教えておられる方が講師で来られ、剣道をされておられるという小柄な女性でしたが、パトロールや普段歩いている時に不審者が来た際にどのようにして我が身を守るかというのをとても分かりやすく楽しく教えていただき、とても楽しかったです。

また、来月は、愛護協会の施設見学で、芦屋警察署の管内に行かせていただくことになっていて、楽しみにしています。

昨日の役員会では、各班の班長が当該月の活動報告をしていく中で、愛護委員さんが、色んな所をパトロールしていて、二つの班で道路の標識が薄くなっていたので、道路公園課にLINEを使って、すぐ写真を送って、塗り直して欲しい旨を伝えたということや街灯の根元が腐っており、ぐらぐらしているので市役所に電話をした等、それぞれ、各自で活発に活動していただいているという印象です。

宮川で防波堤を作る護岸工事をしており、愛護委員会として、保護司会の進藤会長から防波堤ができてしまうと見通しが悪くなるのではという意見をもらったので、宮川班の愛護委員さんと相談したところ、実は、同様に思っていたということで、愛護委員会で動くことになりました。防波堤の橋のところに透明ボードを張ってもらい、車が通っていても、私たちや120cmくらいの子どもが通っていることが分かるようにして欲しいという要望書を出させていただきました。各小中学校の署名もお願いし、北野校長にもお世話になりありがとうございました。年末に無事回答が来て、全面的に私たちの要望を聞いていただき、透明ボードを何メートルか張っていただくことになりました。

このように、色々な人の目で、子ども達のために活動をしていただいています。各愛護委員さんはもちろん、横の繋がりというか、団体の方々も私たちの活動を支えてくださっているということを感じた一年でした。ありがとうございました。

(渡部委員長) どうもありがとうございました。では、中村さん。

(中村委員) 愛護委員会で監査をさせていただいている中村です。よろしくお願い致します。先ほど、会長が言ったように、色々な活動をしている中で、通学路点検をしている際に、こういうところは直らないのか等、警察の方も来られていたのでお聞きすると「直らない」や「こちらを直せば、こちらが危ない」という場所があり、うまくどちらも安全に通れるようにならないという場所があります。そういう場所は、毎回、子ども達を通る所で、直らないから毎年同じところが指摘されます。

そういう場所の通学路点検に行くことで、ほかの方にも分かるようになります。また、直したいけど直らないというのをきちんと警察の方が説明してくださるので納得できたりします。ただし、そういう場所があるというのを子ども達に伝えていくというのが、私たちの責任かなと思っています。

家の冷蔵庫に『大人が変われば、子どもが変わる』と書いたものが貼ってあるのですが、それを見た時に、そのような場所を通るときに大人がちゃんとした通り方をしていけないといけない、また、子ども達に手本を見せなければいけないと思いながら、自分が通るときには忘れていたりしています。このようなことを子どもに言うだけではなく、自分たち自身が変わっていかなければいけないと思っています。大人達が、ちゃんとしなければならぬということを子ども達に見せていくことが大事かなと思いながら活動をしています。よろしくお願い致します。

(渡部委員長) 交差点で思い出したのですが、以前、車を切り返ししなければ、通れない交差点がありました。それはそのまま、どうしようもないのですが。

(入江委員) 今日も、その交差点の所を歩いていたら、山手町の町内会の方が、市役所の方と歩いておられ、そこで、色々議論をしておられました。多方面の方々から言われていますが、どうしようもないです。

(渡部委員長) 多方面の方もそう言われているのでは、どうしようもないようですね。では、今村さん、お願いします。

(今村委員) 朝日ヶ丘小学校の今村です。前は来られませんでした。今年度初めてです。よろしくお願い致します。

先ほど、大久保所長の説明にあったように、どこの小学校も落ち着いています。すべての小学校を目の当たりにはしていませんが、小学校校長会という形で、月に一度集まって連絡を取ったりしていますが、その話を聞いていても大きく大変だという話は、各校から出てきて

いません。落ち着いて、学習活動・学級活動等をしています。行事も一生懸命やれていると思います。

ただ、私たちは、学校から外に出て行って、子ども達がどこで、どのようなことをしているかなど、見守りはできないので、愛護委員の方や、民生委員の方、地域の方々が、子ども達を見守っていただいているというのは、とても大きなことだと思っています。子ども達にとって、自分が小さな時から知っている近所のおばちゃんとか顔見知りになると、小さな時から知られているというのは、ある意味大きなことでもあります。顔見知りの人や知っている人がいるのは、声をかけても、なかなか挨拶をしない子もいるかもしれないが、近所の誰々というのを知ってもらっているというのは、大きいと思います。

そういう中で、学校は、学校の役割で近所の方から見守られながらやっていくのが良いかなと思います。もっと大人になると、先ほどの「アサガオ」の話にもありましたが、だんだんと、人との関わりがへたになっていくのかなと思います。学校でも、できるだけ自分の思いを伝える、その前に人の思いをしっかり聞く、というのを小学校でもお互いにやっています。その辺りを小さな頃からやっていくのが大きいかなと思います。以上です。

(渡部委員長) ありがとうございます。中学校は、どうでしょうか。

(北野委員) 学校は、今、何をしているかというところ、ちょうど私立とか公立の推薦の面接があり、子ども達がそれを受けるので、面接の練習をしています。面接の練習をしていて思うのは、子ども達は、自分ではできていると思っていてもなかなかきちんとできません。でも、一回練習してあげることによって、ガラッと変わります。やっていて、この練習は、意味があると実感しながらやっています。

今、学校は本当に落ち着いていて、子ども達は、挨拶をしっかりしますし、集会でも話を聞く姿勢は、できています。ただ、全員がいつも良い挨拶をするかというところ、そうではない時もあります。でも、一部の子どもが大きな声で挨拶をすると、学校の雰囲気は、すごく良い方向に動いていきます。そのような雰囲気の中に子ども達がいたら、今は、挨拶ができない子どももいずれ、こうやって挨拶をするということを学んでいくのでは、というように見えています。

学校として、今、一番頭を痛めているのは、不登校の問題です。不登校の原因というところ、学校のことを理由といわれることもありますが、きっかけや引き金は、学校にあるかもしれませんが、家庭の問題もあるし、本人の性格上の問題もあるし、家庭の中での昼夜逆転のような生活リズムの狂いというようなケースもあり、学校生活に起因しているものだけであれば、学校で対応できるのですが、そうでないところ

は、なかなか踏み込むのが難しいです。そこに、関係機関と連携をしてということもありますが、関係機関も虐待とか、そういう命に係わるぎりぎりの段階であれば強制力を発揮できるが、そうでなければ、なかなか踏み込めないのが実態です。そこまでの権限がないとか、あまり強力にいくと関係が崩れて、かえって難しくなることもあり、関係機関も深く踏み込めない中、決定打がないというのが一番の悩みの種と思っています。

「愛護班通信」をたびたび、読ませていただいています。これは、小学校区なので、小学生の記述が多いです。私は、中学校の記述があれば、そこにマーカーを引いて読み返しています。記述で中学生の良い場面も悪い場面も、もし載っていれば、我々としても読み甲斐があるし、そこをきっかけに前後を深く読む機会になると思っています。その辺りもお願いできたらと思いました。以上です。

(渡部委員長) ありがとうございます。では、幼稚園のほうは、どうでしょうか。

(春井委員) ちょうど、今、岩園幼稚園は、学校評価アンケートを保護者に配って、ほぼ、100%の回収率で教育内容の評価をいただいています。その項目の中の一つに、「地域との連携を深めていますか」という質問項目がありますが、毎年、その部分が「子ども達はのびのびと幼稚園で活動していますか」とか、「基本的な生活習慣が身についていますか」という設問の良い評価がたくさんあり、パーセンテージが高いですが、「地域との連携を深めていますか」というのが、毎年、よくできているというところではなくて、できている・あまりできていない、つまり、普通という評価が多いです。

保護者会では、折り紙交流会で地域の方とふれあったり、高齢者施設に行ったり、地域と連携して中学生のトライやる・ウィークを行っていますが、この設問項目は、伸びていません。この項目は、大きな目玉がないし、子ども達の通常の生活の中では見えにくい部分だと思っています。

愛護委員さんがピンクのジャンパーを着て、見守っていただいていることを紹介する予定ですが、「愛護委員さん」と私たちは、子ども達に紹介していますが、例えば、「愛護リーダーさん」とか、先ほど、今村校長先生が、地域のおばちゃんが顔見知りでと、ご意見を言っておられました。が、「おばちゃん」というのは、子ども達からすると「おばちゃん」ですが、こういうご時世ですので、「おばちゃん」は、愛着がありますが、私などから「愛護のおばちゃんだよ」と紹介するのは、いささか言葉を選んでしまいます。例えば「愛ゴージャードよ」とか「愛護ラブさん」とか「愛護ルックさん」とか、ジャンパーの後

ろにそういう愛称があったりすると、幼稚園の子ども達にとっては、愛護委員さんがより身近な存在になるかなと思っています。

これからの社会のキーワードは、分かりやすさだと思うので、分かりやすく、誰が聞いても、誰が見ても分かりやすくしていくことが課題かなと思います。

幼稚園教育も本当に分かりにくく、説明しにくい内容なので、それを保護者の方に分かっていただくというのが難しいと思っています。愛護活動も分かってもらいにくく、幼稚園教育に似ていると思うので、分かりやすさがこれからのキーワードかなと一番、思っている感想です。以上です。

(渡部委員長) ありがとうございます。入江さん、中村さん、どうですか。何か愛される愛称は、ありますか。(中村委員：募集しないといけないですね。) ちなみに、芦屋市のゆるキャラというのは、ありますか。

(事務局：ないです。) 何か募集しても良いですね。(入江委員：また、考えてみます。) それができれば、ユニホームの後ろにプリントすると良いかしれないですね。倉内さん、どうでしょうか。

(倉内委員) 民生児童委員の倉内です。よろしくお願ひ致します。先ほど、おばちゃんという話が出ましたが、民生児童委員は、登下校の見守りをいつもさせていただいています。顔なじみになると、ちゃんとお挨拶してくれて、少し横にそれたりした時に「どこに行くの」と聞くと、「ちょっと友達のところへ寄って物を渡してから帰る」とか、学校から早く帰っているから「どうしたの」と聞くと、「これから塾があるから、遅れるから」と言っ、走って帰ったりする子もいます。

色んな事をおしゃべりしてくれます。顔なじみになることが一番大事なことかなと思います。今度、いつも毎年してくれるのですが、私は、朝日ヶ丘小学校区ですので、小学校では見守りをしている方たちを年に一度、朝礼にご招待いただいて、紹介して下さるので、そうすると、この人は、信頼できるおじちゃん、おばちゃんだというのが必ず分かるので、余計に声かけやすいです。

引きこもりの件ですが、私たち民生委員は40-70問題とか、50-80問題とか、お年寄りの引きこもりをよくやっていますが、子どもさんの引きこもりもそうですが、家にこもると外に出ただけなので、なかなか私たちは、気づきません。あそこの方がそうですよとか、ご近所の方が言われれば分かるのですが、それ以外は分からないので苦勞しています。

先日も民生委員の中でアンケートを取ったら、引きこもりの方がよく分からないという方が非常に多かったです。だから、お子さんも同じです。親御さんが外に「うち子どもは、学校に行ってなくて」など

とは絶対に言わないので、お隣に確か小学生がいたなと思っていても確信が持てないです。皆さん、言ってくださらないので、民生委員や主任児童委員の耳に入りません。そういう点で、皆さんでお話し合いをして、なるべくご相談、連絡いただくようにしたいという話が出ています。

民生児童委員は、「アサガオ」のことはよく知っていますが、「アサガオ」にどなたが相談に行っているかというのは、私たちには、はいつてこないのです、その辺りでも意思疎通ができていないので、見守りができない状態になっているので、そういうところも気を付けたいなと思っています。以上です。

(渡部委員長) どうもありがとうございます。進藤さん、どうでしょうか。

(進藤委員) 保護司会としては、昨年、更生保護の70周年があり、記念行事が活発に行われました。保護司というのは、私が入った頃には「言わないように」とか、保護司をしているという事を地域の方に黙っているようにということでしたが、今は表に出るようになってきました。

先ほどから、お話を聞いていますと、春井先生も幼稚園で愛護活動が分かりにくいということを言われましたが、保護司もどういう活動をしているかが分かりにくいとよく言われます。対象になっている子どもや大人のことは言えないし、内容ももちろん言えないので、そこが悩ましいところです。

阪神7市の保護司会(報告会)に行くと、保護司さんが中学校で話をしましたとか、小学校でお話をしてきましたとか、言われますが、芦屋は、私たちが働き掛けないのでお声もかかからないですが、学校の方からも保護司活動の話をしてくださいというのは皆無ですので、動いてはいいませんが、お声がかかれば相談して寄せていただきたいと思います。と思っています。

愛護センター運営連絡会とか青少年の会などに出席させていただいて、必ず、定例会でこういうことがありました、と報告させていただくのですが、先ほどの白ポストのことでも、一月30kg~70kgくらいこんな本があるのです、と言うと皆さん、びっくりされます。ほかにも中学校の卒業調査を3年前から、このように先生方が、頑張ってくださいっています、と言うと皆さん、感心してくださります。

やはり、非行少年少女が多いです。対象になる子どもさんが多いです。私たちは、16歳から20歳まで4年間、見なければいけないのです。そうすると、子どもと話す話題がなくなってしまうのです。非行の原因というのが、北野先生がおっしゃったように家庭問題です。親の虐待や離婚、再婚、再婚相手とうまくいかなくて飛び出したとか、

そういうことがすごく多いですね。おかげさま、というか、私は民生委員をやらせてもらっていたので、そのあたり、わりとずけずけと踏み込んでいけて、家庭の中まで話ができます。非行青少年少女を対象とみると、17・18歳です。その親というと、私の子どもと同じぐらいです。よくよく、対象者の子どもに聞くと、「私は呉川だから、精道中学だった」と言うと、「え、うちのお母さんと一緒やん」とか、「そしたら進藤君、知っているわ」とか、「あの先生、うちのお母さんと同じ担任してたから一緒だわ」とか、その辺りのつながりで、会話がはずみます。「もう、したらダメなんよ。」とか、言うところ「はい」とか、言っていますが、そうですね、親御さんのことがつながってくるので難しいです。

大人でいうと、覚醒剤が多いです。全国的に平成14～15年ぐらいからは、犯罪は減ってきています。しかし、傾向的には再犯が増えてきています。芦屋では、ここ2～3年は事件数として15～16件での推移を保っています。精神疾患の人が多くなってきました。精神疾患の人を私は2～3人見えています。5年ぐらい見ますが、同じことの繰り返しです。私は、カウンセラーかと思う時もあります。引きこもりの方もいらっしゃるが、悪いことをするのに、どうして引きこもりの人がするのかと思ったりします。

それから、一つ、大久保先生にお聞きしたいことがあります。ご近所で、娘がずっと引きこもっているんですとおっしゃる方がいて、「アサガオ」のパンフレットをお渡ししようかと思いましたが、それも待ってました、とばかりに言うのもどうかと思って、そこがすごく悩ましいです。コンビニの買い物は、行かれるようです。後は、ずっとお家にいるみたいです。会話は、家族の方とはそんなにないが、お母さんとはちょっと会話する程度だと言われます。お父さんとは、犬の散歩で時々、お会いしますが、どのようにお勧めしたら良いのでしょうか。

(渡部委員長) 何かありますか。誰かは、キャッチしているのですね。

(進藤委員) そうです。昨年、そのお話を聞いて、即、ポストに入れるのもどうかと思ひまして、ここ、2～3日中にそっとポストに入れてみようかと思っています。

(渡部委員長) 「アサガオ」の場合は、相談があったらもちろん受けますが、カウンセリングや心理のほうで、アウトリーチといって、相談者が出かけに行ってキャッチすることもあります。それは、あまり、されてはいませんか

(事務局：大久保) 部長からも言われていますが、相談員が、二人おりますが、二人同時にいけば、アウトリーチや訪問支援もできますが、一人単独の日がほとんどなので、一人が出てしまうと、その日が無理になってしまうので、アウトリーチはできない状態です。なんとか、アウトリーチや訪問支援ができたらと、正直、思っています。

(進藤委員) 今日、お会いしたので話をお聞きすると、もう十何年お家にずっといらっしゃるとい事なので、これは、完全なる引きこもりだと思っています。

(渡部委員長) 例えば、アウトリーチができるように、週のうち1日だけ二人出られる体制を作ってみて、その日だけ週に1回ですが、アウトリーチを始めてみるとか。予算取りとかもいるかもしれませんが。

(事務局：大久保) そうですね。予算取りもしなければいけないですが、アウトリーチをしなければいけない、と言いながらも、正直、なかなか難しいです。

一度、来てもらって、話を聞いても良いと、おっしゃるのであれば、お二人がおられる時に、どちらか一人に行っていただくというのは、可能だと思います。ただ、行っても「なぜ来たの」となるとは困るので、ご本人が了承済みの状況で行かないといけないと思います。(進藤委員：そうですね。)

(田中部長) アウトリーチは、アウトリーチで、単なるカウンセリング、プラス、アウトリーチの力量というか、技術が必要だと考えているので、今の体制でそのままアウトリーチというわけには、なかなかいかないと思います。

(渡部委員長) もう少し、トレーニングが必要ということですね。(田中部長：はい。)

それから、進藤さんから少し出ていた薬物依存の問題だと、最近では芸能人の問題が報道されたりしますが、芦屋では固定・特定の方の件数で十何件くらいというイメージですか。

(進藤委員) そうです。いろんな犯罪を犯した人が15～16件です。

(渡部委員長) 麻薬とか薬物もその中には、若干含まれているということですね。

(進藤委員) はい、そうです。私が今見ているうち薬物、精神疾患、女性の万引きの人がいます。特に最近では女性の万引き・窃盗が多いです。

(渡部委員長) 支援が必要な方は、進藤さんを経由して専門機関と繋がっていたりしますか。

(進藤委員) それは、裁判で刑が決まれば、裁判所の方から支援する人が付いてきます。犯罪は、犯罪で保護司が付きます。私は月に2回見ますが、その人たちとは月に1回面談しています。お互いに面談した内容は、文章でのやり取りをして、支援される監察の方と面接をします。

(渡部委員長) ありがとうございました。少し全体の話で、お伺いしたいことがあります。先ほど、小学校は、ずいぶん落ち着いているという話がありましたが、大学から実習に出ている幾つかの学校は、逆になかなか落ち着かないから、ある学年には実習生は入れなくて落ち着いている学年だけというところもあります。

ちなみに、学力・学習状況調査が2019年度からA問題(基礎)とB問題(応用)が一緒になって、私が知っている自治体は、ほとんどで点数が落ちてしまっています。応用のBと基礎のAが一緒になって、以前だとAで得点がとれていて、Bが低いという形で言われていたのが、そうではなかったように聞いています。芦屋の場合は、今年の学力・学習状況調査で、例えば、家庭学習時間とか、そういうのを見て、特に心配になるところはないというイメージですか。

(今村委員) そうですね。特に、大きく変化したというのは、小学校はないです。中学校の英語がというのは、全国的に言われていたのもそのままであったと思います。芦屋はおかげさまで、学力・学習状況調査は全国より良いですね。いろんな皆さんの努力だと思います。学校もですが、家庭も努力しているようです。

(渡部委員長) 地域との関係も少し出ていて、いわゆるコミュニティスクールというのが、努力義務になったということです。全国でも文科省からコミュニティスクールを設けるようにというのが出ていますが、芦屋の場合は、コミュニティスクールはどんな感じですか。

(今村委員) 芦屋は、コミュニティスクールは、まだ、本格的に実施になっていません。最初に、こういうふうにしましょう、というのを作っている段階です。来年度に施行で、3年度に試験的に何校かでやってみて、4年に全面で始めましょうという段階です。今、こういう人

たちを集めて、こうしようかというのをやっている段階で、一歩進んだかなという感じですか。

(事務局：大久保) 伊丹は、だいぶ前からしています。

(今村委員) 阪神間では、西宮では試験的に始まっていて、そういう意味では一番遅く、最後です。

(事務局：大久保) 芦屋の場合、コミスクとコミュニティスクールを勘違いしてしまいます。小学校におけるいわゆるコミスクではありません。コミュニティスクール事業というのがあって、文科省から補助金も出るし、学校評議員というような組織というか、地域の人も入ってきての事業です。

(渡部委員長) そうですね。地域コーディネーターの予算なども国からつきますので、使えるのであれば活用すればいいと思います。普段からの地域との関わりがすでにあるので、それをもう少しうまく制度にのせていくと、芦屋方式の形が出てくるのではないかと思います。

私は、相撲も好きなので、貴景勝さんは、こちらのご出身ですね。貴景勝関にこういった、愛護の問題とか青少年の問題に御協力いただくというのは、まだ、企画には上ってこないですか。

(事務局：大久保) 青少年 愛護センターの隣がスポーツ推進課で、この度、また、優勝したら、横断幕を張らなければ、と話をしているようです。

芦屋の観光大使になっていただいています。今はそのような話は、ありません。

(田中部長) ふるさと大使ですね。昨年3月になっていただいています。今は、とにかく、相撲の方が大事だということですので、なかなか、ほかの活動にまでは手がまわらない状況です。

(渡部委員長) 貴景勝さんの大きな手が、「ストップ」という感じで前に突き出した、「薬物ダメ」みたいなポスターがあっても良いのかと思いました。

(事務局：大久保) 佐渡さんというオーケストラの指揮をされる方がいらっしゃいますが、佐渡さんは山手小学校の校区で、山小に来られて演奏会をしていただいたという話を聞きました。

(入江委員) 昨年の1月に山手町子ども会が主催になって、山手町に佐渡裕さんは住んでおられるので、直接、事務所の方と交渉されて、うちの愛護委員さんが交渉をされた方なんです。1月に山手町住人と山

小の子どもと保護者は無料で、スーパーキッズの子ども達をみんな連れて来てくださって、体育館ですごく楽しかったです。子ども達にもすごく上手に話しかけてくださって、「ちょっと演奏したい人～」と言うと、2人くらいの子が手を挙げて、色々させていただきました。

(渡部委員長) やはり、そういう活動の中で、ふるさとへの愛着みたいなものが子どもに育まれて、愛されて育った子ども達は、良い感じで伸びていきますね。

さて、みなさんどうでしょうか。全体を聞いて、何かありますか。

先ほどの愛称をぜひ2020年度に募集をかけていただいて、名前とキャラクターと一緒にやっていただくと良いかと思います。愛護の方で検討していただいて、募集をとということになれば、募集で要る予算取りをしていただきたいと思います。

では、よろしいでしょうか。一応、一巡しましたので、少し早いですが、これで事務局へお返しします。

(事務局：大久保) ありがとうございます。内容の濃いお話をたくさんいただきました。私どもは、この会と青少年問題協議会と二つあるわけですが、委員長の渡部先生には、両方とも出席していただいているので、ありがたいです。今回は、先になります。来年度の7月が開催となります。また、はっきりと決まりましたら、皆様にご通知申し上げたいと思いますのでよろしくお願い致します。

本日、副委員長が欠席ですので、閉会のご挨拶を渡部委員長さんをお願い致します。

(渡部委員長) 私は65歳の定年ということで、神戸大学は3月末で定年になりますが、また、大阪の方で4年間勤めることとなります。次回の時には肩書が、大阪成蹊大学の特別招へい教授に変わっていると思いますが、引き続きよろしくお願い致します。ありがとうございます。

(事務局：大久保) 本日は、ありがとうございます。

以上